

第30回IULTCS (国際皮革技術者化学者協会連合会) 総会報告

東京都立皮革技術センター 吉村圭司

IULTCS概要

International Union of Leather Technologists and Chemists Societies「国際皮革技術者化学者協会連合会」(IULTCS)は、1897年に設立された国際的な皮革関連の技術者と化学者のための組織である。その目的は、皮革関連の化学技術者間の知識及びメンバーである各国の協会間の協力を増大させることによって、世界的に化学技術者の経験と交流を促進し発展させることである。世界の皮革技術の中心となり、皮革に関する提言やISO規格の審議も行っている。IULTCSでは2年に1回各国の持ち回りでCONGRESSと呼ばれる総会を開催している。そこでは、化学、技術等、皮革製造の進歩をお互いに広めるための専門的なフォーラムが行われる。総会では、メンバーである各国の協会間及び皮革製造に興味がある個人または組織間の交流も促進している。会議の内容としては、開会式、IULTCS各種会議（執行委員会、技術会議等）、Heidemann講義（基調講演）、口頭発表、ポスター発表、閉会式が行われる。

IULTCS総会

第30回IULTCS世界会議が2009年10月11日から14日まで中国の北京の中心にある北京国際飯店のビジネスセンターで開催された。今回の会議は、1949年にIULTCS世界会議がパリで第1回の会議を開催してか

ら、60周年を記念して行われたものである。110年の協会の歴史で、アジアでの開催はインドに続いてようやく2度目である。もちろん中国では初めての開催であり、この総会を成功させようという意気込みは非常に高いものであり、中国皮革協会が運営の中心になって進められた。

今回の参加者は表1に示すように、21カ国から301名である。多いところでは、中国が229名、フランスが11名、インドが10名、日本が10名、イギリスが7名であった。大会のスケジュールは初日の各種会議から始まり、3日間の口頭発表とポスター発表が行われた。口頭発表は、15分間の発表、5分間の質疑応答で進められた。また、ポスター発表は2回に分けて計5回（第1回が3回、第2回が2回）行われた。

表1 参加登録者国別内訳

国名	人数	国名	人数
中国	229	ルーマニア	2
フランス	11	スイス	2
日本	10	アルゼンチン	1
インド	10	バングラデシュ	1
UK	7	チェコ	1
スペイン	7	インドネシア	1
USA	4	イラン	1
イタリア	3	ケニヤ	1
ドイツ	3	ニュージーランド	1
トルコ	3	シンガポール	1
ブラジル	2	合計	301

会議は、オープニングセレモニーから始まった。IULTCSのElton Hurlow会長によってCongressの旗が掲げられ、開会宣言とスピーチがなされた。会長のスピーチの大意は下記のとおりである。

「革のアイデンティティー (The identity of leather)、皮革産業のイメージ(The image of our industry)、皮革製造工程における技術革新 (Innovation in the leather making process)が重要なポイントである。革は他の産業から排出される再生可能な廃棄物を有効利用したものである。また、革という言葉は価値があるもので、革を差別化するために啓蒙する必要がある。また、環境への配慮がさらに必要となってくるが、IULTCSはクリーンテクノロジーについての支援が可能である。また、技術革新は常になされており、今回のこの総会においても技術革新の種は出てくるでしょう。そのために我々はこの場に集まっているのです。」

次に、University of NorthamptonのTony Covington教授に、その皮革科学への著しい貢献を認めIULTCSの最高の賞であるIULTCS Merit Awardが送られた。Covington教授は、30年間以上にわたり、研究、教育、講演、皮革産業イベントにおける多くの講演、論文発表を行ってきた。彼は鞣しの基本的なメカニズムのよりよい理解に向けた洞察力と貢献によって、世界中の皮革科学者に良く知られ尊敬されている。彼の下からは多くの皮革研究者が育ち、世界中に散らばっている。IULTCSでは1995年から2年間会長を務めた。Merit Awardの盾は、Sichuan UniversityのBi Shi教授とElton Hurlow会長によって贈られた。その後、CLIAのXu Yong名誉会長と中国軽工業協会のBu Zhengfa会長から歓迎のスピーチがあった。

特別講演として2人の記念講演がなされた。コラーゲン研究に関するHeidemann講演として、United States Department of AgricultureのEastern Regional Research Center (USDA)のEleanor Brown博士による講演があった。次に、Zhang Quan記念講演がZhang Yang教授によってなされた。その後、中国皮革協会 (CLIA)のZang Shuhua会長から「皮革産業の発展には化学者と技術者のサポートが必要」というテーマで特別講演があった。その後、口頭発表とポスター発表が3日間続けてなされた。日本からは2報の口頭発表、6報のポスター発表がなされた。

クロージングセレモニーでは、本会議で最も若い発表者として、Ren Longfang博士にVESLIC賞が贈られた。彼女は、Shaanxi Universityで2009年6月に博士号を取得したところである。革からホルムアルデヒドを除去するために、新規のコラーゲンペプチドを使用した研究であった。また、次期会長として中国のSichuan UniversityのBi Shi博士、副会長にはトルコのPulcra ChemicalsのVolkan Candar博士が選出された。最後に、総会は次の開催国であるスペインの皮革化学者協会であるAQEICにIULTCS旗が中国から手渡されて終了した。

次回の第31回大会は2011年9月28日～30日にスペインのバレンシアで開催される予定である。さらに、32回大会は2013年5月29日～31日にトルコのイスタンブールで開催される予定である。33回大会はブラジルとインドが今のところ立候補していることが報告された。

会長からは、閉会の挨拶として、この2年間サポートしてくれた副会長や執行委員会、各種委員会の委員長やメンバー、各国代表に向かって感謝の意が述べられた。ま

た、本会の開催に尽力した中国のCLIAをはじめとする協力に対する感謝も述べられた。そしてオープニングスピーチでも強調した革のアイデンティティー (The identity of leather)、皮革産業のイメージ (The image of our industry)、皮革製造工程における技術革新 (Innovation in the leather making process) という言葉で締めくくった。

研究発表について

論文集を見ると、全体で275題が掲載されており、そのうち口頭発表が43題、ポスターは232題であったが、実際にポスター発表があったものは78題であった。また、日本からの参加者は2題が口頭発表、残りの6題はポスター発表であった。論文集の2/3を中国からの発表者が占めており、中国の皮革研究に対する熱意がわかる。

コラーゲン研究に関するHeidemann講演はUnited States Department of AgricultureのEastern Regional Research Center (USDA) のEleanor Brown 博士によるプレゼンテーションがあった。NSDAによって行われたコラーゲン構造解析についての報告が主であった。次に、Zhang Quan記念講演がZhang Yang教授によってなされた。彼の父親であるZhang Quan教授は中国における皮革科学と技術の創始者でもあり、中国における現代的な鞣しの発展に大きな貢献をした人物である。

その後、CLIAのZang Shuhua会長から「皮革産業の発展には化学者と技術者のサポートが必要」というテーマで開会の挨拶があった。中国の皮革産業の現状について概説するとともに、皮革産業の持続的な発展には技術と化学の発展が必要である。そして、世界的な不況や環境問題を克服するために、これまで以上に技術者や化学者の

力が必要とされていることを強調した。

その後、口頭発表は3日間にわたってなされた。また、口頭発表の合間にコーヒープレイクを取りながらポスター発表が行われた。口頭発表では、多くの質疑応答がなされた。

発表は、基礎研究、クリーンテクノロジー、環境保護及びリサイクル、革新的技術、品質基準、新規皮革薬品、皮革製品の企画に分類されていた。内容については、皮革の構造に関する新しい研究、新しい実用的な環境技術、靴のデザインまで幅広い分野をカバーしていた。参加した大学の研究者から製革工場の技術者まで、すべての人に何らかの興味深いプレゼンテーションがあったことと思われる。特に、中国人研究者や技術者からの質問が多くなされ、彼らの皮革技術に関する関心の高さが伺われた。



写真1 日本からの参加メンバー



写真2 会議の様様